

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501204		
法人名	有限会社 大島		
事業所名	グループホームいきいき		
所在地	長野県下伊那郡松川町元大島5274-22		
自己評価作成日	平成26年2月9日	評価結果市町村受理日	平成26年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivvosvoCd=2072501204-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成26年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東西に山を眺め、自然に囲まれ移りゆく季節を利用者様と共に楽しみ、地域の方々と共に生活しております。木のぬくもりを感じる事のできる建物で屋内も家庭的な構造となっております。利用者様のその時その一瞬が心穏やかで楽しいひとときの積み重ねとなるようスタッフ一同心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

利用者調査によると利用者9人中8人の回答であったが、「利用されている事業所の良い点、優れている点など」にすぐ連絡・報告してくれることや、対応の丁寧さに感謝している評価の言葉が多く見られ、「利用されている事業所に改善してほしい点、気になる点」には指摘されるような言葉が全然なかった。このような高評価を得ることができたのは、なぜだろうか、訪問調査で明らかにできると考えてきた。その結果、管理者の次のような話に大変感銘を受けた。家族にとって、「職員がついているから安心」というのはごく当然のことで、それにプラスアルファすること。そのためには、職員は心から利用者やその家族の立場になって対応することが大切」と語ってくれた。利用者がけがをしたら家族が心配するから、直ぐ連絡してあげよう、利用者を大切に思っているかと家族はいつも不安を抱えているから、丁寧な対応をしよう、といった職員の気持ちがよく伝わってくるグループホームであった。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	66	職員は、活き活きと働いている (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月職員会にて話し合い、職員一人一人が念頭におき仕事に取り組んでいる。	「利用者の皆様と共に暮らしをつくりあげます」という理念を基に、毎朝の引き継ぎの後『職場の教養』を読み話し合っ、実践につなげている。また、理念を掲示したり、パンフレットや「いきいき便り」に掲載したりして、「地域の中で地域の皆様と共に暮らします」という理念を広めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加させていただいている。(ふれあい広場、夏祭り、どんど焼き、節分、中高・大・老人学校・地域ボランティアなどetc)	自治会に加入し、河川清掃などの活動に参加している。地域の行事(ふれあい広場・夏祭り・どんど焼き・節分・きつね踊り)に積極的に参加したり、地域の中学生・短大生の職場体験や実習を受け入れたり、地域の老人大学・ボランティアに来ていただいたりして、交流を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には折々にふれ、説明し理解を得られるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の方々やご家族様からのご意見・ご希望等を聞き、反映できるように努力している。	運営推進会議は2か月に1回、町の担当者、自治会長、民生委員、家族会代表を構成とするメンバーで、グループホームの状況等の報告を中心に話し合っている。自治会に協力していただき、「いきいき便り」を、地域に回覧できるようにしている。	運営推進会議では、グループホームの状況等の報告などが中心なので、話し合いがマンネリ化してきている。テーマを持った話し合いや、行事参加などを兼ねた内容を工夫していきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡はとっている。運営推進会議以外にも、市町村担当者のもとへ行き、報告したり、アドバイス等を受けている。	運営推進会議に毎回参加していただき、いろいろなアドバイスを受けている。また、「いきいき便り」を町の役場に置いていただき、地域への広報に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会でも話し合っている。マニュアルを使い、拘束しないケアに取り組んでいる。夜間の21～6時まで防犯のため夜間は施錠している。	転倒の危険を防ぐため、止むを得ない場合家族の了解を得て、ベッドのサイドレールや車椅子の安全ベルトを使用している事例がある。マニュアルを基に職員会で経過報告を行い、解除に向けた話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で話し合い、独自のマニュアルを作成していく。学習する機会を設けていく。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、ミーティング・職員会等で話し合い理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分に説明し、理解・納得を得た上でサービス提供を行っている。ご意見もお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議でご意見等を言っていたりできるように努めている。	家族が面会に来た時には、意見や要望をできるかぎり聞くように配慮している。意見箱には意見は入っていないし、運営推進会議には家族からの意見は出なかった。しかし、年1回開いている家族会から要望が出され、グループホーム入口の通りを、砂利道から舗装に変えてきた。	今回の「利用者調査」では非常に良い結果を得られ、職員の励みになった。このようなアンケート調査を通して、広く意見・要望をとらえる工夫をするとよいと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で機会を設けている。	職員会の司会を回り当番で行い、毎回課題を決めているので、積極的な話し合いが出てきている。職員は、お互いに悩みを聞いたり、聞いてもらったりすることのできる雰囲気があり、何かあった時にも話しやすいと答えていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況は常に把握し、日々の業務の中で休憩を含め、お茶時間・引継ぎの時間を作り、気軽に話が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けるようにしている。必要に応じて講習等にもさんかできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム等で研修し、話し合い、改善できるように努めている。また、下伊那地区グループホーム連絡会にも参加している。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・入居時・面接時に、ご本人よりご要望等を良く聞き、関係づくりに努めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時・面接時・利用初期時などに、ご要望等を聞き、時間をかけて話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、ご要望を良く聞き、必要としている支援の対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合って暮らしていきながら、人生の先輩である利用者様より学ぶよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に、ご家族様へ様子を話し、毎月お手紙・写真・「いきいき便り」等を送り、様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご希望等があれば、すぐに対応している。	利用者のこれまでの関係を大切にして、教え子や友人が訪ねてきたり、手紙をいただいたりした時には、できるかぎりの援助をしている。また、お正月やお盆には娘さんや兄弟が住んでいる所や実家に帰って行くことができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間や落ち着いた話しやすい居場所の確保に努めている。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にはお見舞いをしている。また、葬儀へも参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のご希望等お聞きし、個々に合わせた居室、また環境作りを行っている。	センター方式は採用していないが、普段の会話や言葉掛けを大切に、その時の表情や行動などを詳細に記録し、職員がいつでも見れるようにしている。そして、職員会で話題にして、利用者の思いや意向を共有・理解できるようにしている。また、家族からの情報も大切に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問し、話を良く聞き把握して、全職員が認識できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌への記入、朝・夕・随時の引き継ぎを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員会で行っている。	毎日の利用者の「個別日誌」の記録を基に、「ケアプラン実施状況及び評価」を活用してモニタリングに活かしている。1か月ごと、あるいは必要に応じて家族等とのカンファレンスを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の「連絡帳」・グループホームの「日誌」・「個別日誌」に記録し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎などは柔軟に対応を行っている。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練、ボランティア交流、福祉体験の受け入れ、地域等の情報交換を行っている。地域包括センターを活用し情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回協力医の往診があり、何かあればすぐに対応できるよう、協力体制が出来ている。	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医への受診を支援している。また、毎月1回協力医の往診があり、緊急時にも往診していただけるような協力体制をとっている。また、看護師が毎月利用者家族にお知らせを送り、健康状態や日ごろの様子について報告し、健康安全に十分配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員会において指導を受けている。又、随時相談・指導を受け実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時など、状態等を医療機関と話し合ったり、病院へ出向いたりして把握を行い、又、情報提供書等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化を前提にした話し合いを行っている。毎月の往診時に、個々の指導を受け、変化時にはすぐに協力医の指導を受けている。	重度化が進み、車椅子利用の方が7人になってきている。家族と重度化を前提としてきた話し合いを行い、ターミナルケアの指針を基に、協力医と密接に連携をとっている。これまでに何人かの看取りを経験してきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡マニュアルにて対応している。消防署の方において訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署の方へ頼み、全員で行っている。地域の方の方へも運営推進会議でお願いしている。	2年ほど前にスプリンクラーを設置し、また、毎月1回消防定期点検を行って、普段の防災に努めている。9月には職員全員が参加し、ベルが鳴った後利用者を避難誘導する訓練を行った。3月には消防署・地域の方の協力を得て避難訓練を行った。	

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人一人の人格を尊重している。言葉かけや対応にも気を配っている。	言葉による虐待がありうるので、ふざけや冗談については気をつけながら話すようにしている。そして、利用者が笑顔になるように、職員は笑顔で楽しく、丁寧な言葉遣いになるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合ったケアプランを立て支援し、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にし会話をしたり、自由に日々を楽しんで過ごして頂けるように、努めている。外出・買い物等は希望があれば体調に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備、盛り付けを行っている。献立については食べたい物などを聞いて、冷蔵庫にある物で用意している。料理の仕方や味付けなどを教えて頂いている。	献立表は作らず、利用者の希望などを聞いて買い物をしたり、今ある食材を使ったりして調理している。その献立を記録して、管理栄養士に指導してもらっている。訪問調査の当日、利用者は準備・下ごしらえ・味見・盛り付け・後片付けを職員と一緒にやって行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食チェックしている。その方が摂取できるように好むもの、食事形態など、バランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをしたり、支援したりしている。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方もいらっしゃるが、排泄チェックを行い、トイレで排泄可能な方には声かけをし、トイレ誘導を行っている。	自力で歩ける方2人は、声掛けしてトイレ誘導している。車椅子利用の方7人は、オムツをしたり、布パンツなどを使ったりしている。町からオムツ券の補助があるので、有効に利用させていただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は体を動かしたり、気候のいい時は散歩を行ったりしている。食事などは野菜や繊維質のある物を使った副菜で工夫している。水分のある物や汁物もつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望を聞き、希望に合わせて行っている。入浴チェック表を活用している。	2、3日に1回、午前はディサービスの利用者が入浴するので、午後に入浴できるようになっている。リフト入浴ができるようになっているが、重度の方には足浴や清拭などで支援している。入浴好きの方が多く、朝風呂に入る方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強要しないで、各々の好きな時間に起きていただいている。眠れない方には一緒にお茶を飲んだり話をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果やどんな薬かを看護師より聞いたり、薬局からの処方内容の用紙に目を通して、利用者様の観察を行い、往診時など協力医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ、音楽、カラオケ、食事作り、買い物・散歩などその方に合わせた楽しみが出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	閉じこもらず気分転換など、希望に添って外出が出来るように努めている。	普段は事業所周りの広場を散歩したり、近所に買い物に行ったりしている。外出できない時は室内で体操したり、日向ぼっこをしたりして、気分転換をしている。また、季節や行事に合わせて、蕎麦の花や菊の花を見に行ったり、外食したりして楽しんでいる。	

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態に合わせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等はいつでも使用・書けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物、写真、趣味の物など一人一人の個性に合わせている。雑誌・新聞を置いて好きなところで読んで頂いたり、季節の花等を飾って季節感を感じていただいたり出来るように努めている。	食堂兼居間や和室には、季節の花や写真・作品などが飾られ、雑誌や新聞なども置かれていて、明るく過ごしやすい雰囲気であった。また、広告の紙を利用した壁飾りは、このグループホームの和やかな雰囲気をさらに作り出していた。訪問調査時はちょうど雛祭りの日で、雛人形が飾られている中で「うれしいひなまつり」を歌い、楽しい昼食の時間を過ごすことができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と会話を楽しんだりするスペース等を設けている。自由に楽しめる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを置いたり、好みの花、思い出の品等を置いたりして、その人らしい居室にしている。	きちんと片づけた方がいいのだが、棚の上に物を置きたい、洗濯物を自分の居室で干したい、などと利用者が望むような部屋づくりをしている。そして、利用者自身が気持ちのよい生活ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることをみつけ、一緒に行っている。春・夏・秋・冬の季節ごとに、玄関や花壇や畑に季節の花を植えたり、野菜と一緒に作って収穫したりして楽しんでいる。		